

特集

学校と日本天文教育普及研究会の関わり方について

成田 直（川西市立牧の台小学校）

1. はじめに

久しぶりに講演依頼をいただきました。テーマは「学校教育と天文教育普及の関わり」。過去にはいろいろと楽しみながら取り組んできたものの、日常的に天文教育活動を行っている訳ではない現状を鑑みて、私に務まるのかという不安が先に立ちましたが、近畿支部長の小高さん（当時）から「学校教育の立場から天文教育普及を語れるのではないか、また天文教育普及の立場から学校教育が語れるのではないか、さらに学校管理職として学校での天文教育普及が語れるのではないか」とご提案いただき、引き受けることにしました。

私が本会に入会させてもらってから 20 年以上が経過しました。三重大学教育学部附属小学校の前田さんのような新星が現れたことは大変喜ばしいことですが、小中学校教員の会員は依然少ないままだと認識しています。そういうわけで自ずと小学校教員である私の希少価値も高いままのはずなので、せっかくの機会ですからいくつかの提案をさせていただくことにしました。

2. 自己紹介

本題に入る前に、私のことを簡単に紹介させていただきます。その方がこの後の提案が理解していただきやすくなると思います。

	天文教育的経歴	学校教育的経歴
2004～2008	黄華堂 ジオカーニバル 天文教育普及研究会近畿支部長（1回目）	豊能町立東能勢小学校 教諭
2009～2011	黄華堂 ジオカーニバル 天文教育普及研究会近畿支部長（2回目）	豊能町立吉川小学校 教諭 川西市立北陵小学校 教諭
2011～2020	大阪ステーションシティ観望会 サマーソニック観望会 アステ川西観望会 宙フェス ジオカーニバル 天文学宙検定公式テキスト 天文教育普及研究会近畿支部長（3回目）	川西市立北陵小学校 教諭
2019～2021		川西市教育委員会 指導主事
2022～2023		川西市立多田小学校 教頭
2024～	教頭先生と星空ツアー	川西市立牧の台小学校 教頭

ざっくり言うと、教員としての経歴は小学校教諭を 15 年、教育委員会指導主事を 3 年経験して、現在教頭 3 年目です。その間、大阪ステーションシティやサマーソニックでの観望会を企画したり、宙フェスというイベントの立ち上げに関わったりしてきました。本会の近畿支部長も 3 度務めさせていただいています。

3. 現状分析

いよいよ本題に入ります。まずは現状分析ということで、手前味噌ではありますが本校に務める二人の理科専科教員に簡単な質問を投げかけてみました。

2. 現状分析

本校の理科専科（20代女性・30代女性）に聞いてみた。

- Q1. 天文分野を教えるのには苦手感がある？
- Q2. 天文分野で授業をしてくれる個人または団体があれば依頼したい？
- Q3. 依頼する場合、どのような相手であれば依頼しやすい？

その結果、回答は以下のとおりでした。

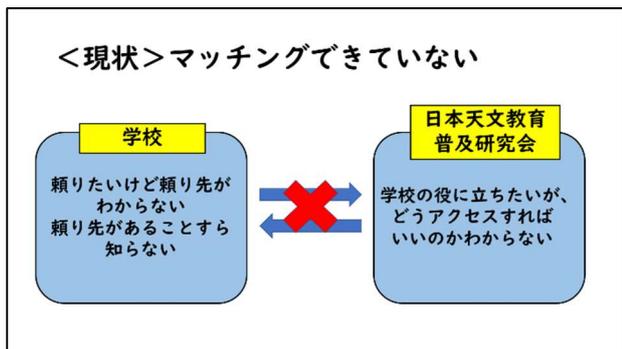
結果

- Q1. 天文分野を教えるのには苦手感がある？
Yes：2人 No：0人
- Q2. 天文分野で授業をしてくれる個人または団体があれば依頼したい？
Yes：2人 No：0人
- Q3. 依頼する場合、どのような相手であれば依頼しやすい？
・ 知り合い
・ できればお金がかからない
・ 授業後も子どもたちとやりとりができる人
・ 子ども相手の授業に慣れている人
・ 小学校の理科の内容がわかっている人（専門的過ぎても困る）

サンプル数を増やしても大体同じような結果になるのではないのでしょうか。機会があれば本会を通じて全国規模の調査をしてみてもいいかもしれません。

要は、小学校教員はやっぱり天文分野を教えることに苦手意識を持っているし、信頼できる依頼先があれば授業をお願いしたいと考えているのです。

一方で、本会には学校教育の役に立ちたい、子どもたちに天文の魅力を伝えたいと思っている人がたくさんいます。つまり、お互いにニーズがあるにも関わらず、ここにミスマッチが生じているのです。



4. 提案

このミスマッチを解消するためのアイデアをいくつか提案させていただきます。ですがその前に、前提となる条件を確認しておきましょう。

先ほどの回答に「できればお金がかからない」とあったように、学校は基本的にお金を持っていません。また、来ていただく方はある程度子どもたちとのやりとり慣れしていて、教科書の内容ぐらいは把握している人（学習指導要領の内容がわかればなお良し）が望ましいのです。これについては、行かれる方が勉強しておくしかないかもしれません。

4.1 会として天文授業等に助成する

まずは会としての動きについての提案です。国立天文台が実施している「ふれあい天文学」のイメージで、申し込み者が学校になるようにして、申し込みのあった学校へ本会の会員が向いて天文授業等を行うものです。学校の金銭的負担は発生せず、天文授業等実施者

へ本会から助成金を出します。

周知先は学校、金銭的負担は0！

- ・会員や団体に助成金を渡しても、結局助成を受けてから学校へ売り込みに行く必要が出てくる。→どうしたらいいかわからない。
- ・助成と言っても現金を渡すわけではなく、無償で天文授業や天文イベントが実施できる。
- ・学校は実施報告等の負担なし。申請のあった学校へ本会の個人またはグループが向いて実施。終了後、実施者が本会(WG?)に対して内容報告とかかった費用（交通費と望遠鏡賃借料ぐらい？）を請求。

国立天文台が実施している「ふれあい天文学」のイメージ

ただ、これは本会の財政事情は無視した発想での提案です。実際にそのような助成が可能かどうかはわかりません。

4.2 個人で学校へアプローチする

これは昔からある正面突破の方法ですが、その際のポイントを提案させていただきます。

学校とパイプがある場合を除き、直接学校へアプローチするのは賢い方法とは言えません。アプローチをかけるならその学校を管理する教育委員会です。

アプローチの例

①教育委員会の電話か窓口にて
 「地域で天文授業支援をやっている。地域の子どもの学習理解のためぜひお手伝いがしたい。無償だ。私は学術団体である日本天文教育普及研究会の会員である。過去にはこんなことをやってきた仲間には教員経験者もいる。一度、理科担当の指導主事とお話させていただく時間を作ってほしい。」

②担当指導主事に対して
 「地域の子どもたちに天文分野の学習を楽しんでもらいたい。お金はかからない。丸投げしているが、内容は現場の先生と打ち合わせたい。例えばこのような流れの45分間を考えている。チラシはこれだ。ボランティア保険には入っている。管内の学校へ募集案内を投げかけてほしい。」

教育委員会へアプローチをかける際にもいくつかのポイントがあります。まずはその自治体に住んでいる、またはその自治体で活動をしていることが望ましいでしょう。縁もゆかりもない人から突然アプローチをかけられても、教育委員会としても「なぜうちの自治体で？」と警戒されます。

次に営利目的ではないことを伝えます。できればここで本会の名前を出して信用度を上げておくことが大切です。オプションとして、過去の活動実績や教員経験者等の活動仲間が

いることを伝えられるとなお良いでしょう。

さらに、活動内容がわかる1枚もののリーフレットがあれば、うまくいけば教育委員会の後援をとりついたり、経路印を押して各校へばら撒いたりしてもらえるかもしれません。ちなみに、リーフレットはデータで用意しておけばメールでばら撒いてもらえるので、お金をかけて何百枚も刷っておく必要はありません。

4.3 地域学校協働活動に入り込む

今、学校の在り方が大きく変わろうとしています。学校は単独で存在するのではなく、「地域とともに」在るべきだと文部科学省が方針を打ち出しています。

地域学校協働活動とは

社会教育法第5条第2項に規定される地域住民等が学校と協働して行う様々な活動を指します。

https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/2024_chousa_gaiyou.pdf

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/cs-torikumi/kyodo.html>

この流れの中で、全国的に地域の人々が学校に出入りする機会が増えています。学校側も子どもたちの学習に結び付く地域人材の発掘がしたいはずです。そこに「先生方の苦手な天文分野のお手伝いができますよ」「理科の授業に合わせて宇宙のお話なんていかが？」「宿泊行事の夜のプログラムに星空観察なんていかが？」と入っていくわけです。

お住まいの地域の自治会長さんあたりがこういった活動の委員になられているケースが多いです。まずはそこへ話を持っていくのが得策と言えます。

4.4 部活動の地域移行の波に乗る

これも文部科学省が打ち出している方針で、今後中学校の部活動が地域クラブへ移行して

いきます。私の勤務する兵庫県川西市も例外ではなく、部活動の受け皿となる地域クラブを募集中です。そこに「天文部」や「科学部」として手を挙げればいいのです。実際に、私の知り合いでお住まいの自治体に天文部の登録手続きを進めている方がおられます。

5. まとめ

「学校教育と天文教育普及の関わり」というテーマをいただきましたが、近畿支部会での講演ということで、日本天文教育普及研究会を主語として提案をさせていただきました。

本稿を読んでもらった本会会員にとって、何か一つでも学校へアプローチするきっかけやヒントになっていれば幸いです。

文 献

[1] 地域学校協働活動について

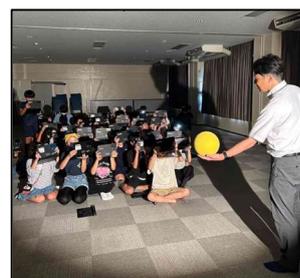
https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/2024_chousa_gaiyou.pdf

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/cs-torikumi/kyodo.html>

https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/2024_chousa_point.pdf

[2] 部活動の地域移行について

https://www.mext.go.jp/sports/content/20221227-spt_ori para-000026750_1.pdf



成田 直